



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

自分らしさを生かした指導で 生徒の自主性や意欲を引き出していく

東京都豊島区立千登世橋中学校 **石川和代** 39歳



Middle
Leader

いしかわ・かずよ◎教職歴14年。荒川区立南千住第二中学校等に勤務後、同校に赴任して4年目。数学科担当。研修主任(2014年度から指導教諭)。12年「数学・授業の達人大賞」(東京理科大主催)で優秀賞を受賞。「豊島区名人先生」に認定され、東京教師道場で後進の指導に当たる。

これまで私が歩いてきた道のり

**他の先生のまねをしたら
生徒の心が
どんどん離れていった**

初めて担任を受け持ったのは教職3年目、任されたのは2年生でした。その学年団には、厳しく接することで生徒を引っ張るタイプの先生が多くいました。「自分の学級の生徒を落ちこぼれにはさせられない」と気負っていた私は、周りの先生のまねをして、怒鳴ったりするなど厳しく接したのです。ところが、厳しくすればするほど、生徒の心は私から離れていきました。結局、思うような学級経営が出来ないまま、1年が過

ぎていきました。

学級の状況を見て、私が担任を続けるのは難しいと判断されたのでしよう。進級前、校長先生に「3年生では数学の授業も多くなるし、担任は負担なのではありませんか」と言われました。担任を外される——それはつまり、生徒に「石川先生には力がない」と思われるということ。自分の力を出し切ったという実感がありません。生徒にそう判断されるのだと思うと、悔しくて、落ち込みました。

を掛けていただいたのです。私らしさ……以前の私は生徒の輪に入って人間関係を築きながら指導していましたが、初めての担任を意識するあまり、その持ち味を捨てていたのです。担当する数学の授業では「分かりやすい」と評価してくれ、授業を通して人間関係を築いてきた生徒もいました。「授業では生徒からの信頼を得て、生徒の学力も付いてきています。学級経営も別の方法で行えばうまくいくかもしれない。もう一度頑張ろう」と思えるようになり、私は「担任をやらせてください」と、強い覚悟で校長に願ひ出たのです。

**「大好きだ」という気持ちを生徒に伝え続けたら
学級の雰囲気が変わった**

無事、3年生の担任に持ち上がった私は、本来の自分の指導スタイルに戻しました。1学期に心掛けたのは、生徒への思いを真正面から伝えることです。叱る時も「大好きだから叱る」ことを伝え、「なぜ今、それが必要なのか」を丁寧に説明しました。毎日の連絡帳にも「愛情たっぷり」のコメントを書きました。すると、次第に学級の雰囲気が

*プロフィールは2014年3月時点のもので

良くなり、「生徒がついてきている」と実感できるようになりました。そこで、2学期は、自分の言葉がより重みを感じられるように伝えたいと考え、「緩急を付けた指導」を目標にしました。普段はやさしくても、

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

学級経営力や授業力に 磨きをかけ、幸せに生きて いける子どもを育てたい

私の理想は、担任がいなくても、生徒が自分たちで学級を運営できるようにすることです。そのためには、「皆で力を合わせたり、人のために何かをしたりすることは気持ちが良い」「出来なかつたことが出来るようになるのはうれしい」ということを生徒に実感させ、自主性や意欲を育むことが大切だと考えています。

ここ数年は、授業と学級経営を連動させ、自主性や意欲を育む仕組みづくりを力を入れています。道徳や「総合的な学習の時間」では、グループエンカウターのルールを用いて話し合い活動を行っています。「全

叱る時はとことん叱る。規律を破つた時など、毅然とした態度で生徒に接しました。すると、生徒の間で「石川先生は怒らせたら怖い」という情報伝わり、声を荒げることもほとんどなくなっていました。

員が発言する」「相手の話を最後まで聞く」「人の意見をばかにしない」「プラスのフィードバックをする」「多数決で決めない」というルールを徹底させると、学級内に「積極的に発言しても大丈夫」「一生懸命やるのがよい」という雰囲気が出てきます。数学の授業でも、同様のルールの下、グループ活動を積極的に取り入れています。学級活動で話し合いに慣れ、発言を受け入れる雰囲気も出来ているため、授業でも生徒は活発に発言しており、学習意欲が高まっていくと感じています。

そうした学級づくりを続けてきて、昨年、最も効果を感じたのは秋の合唱コンクールの時でした。リーダーの生徒の声が小さくて、周りに聞こえない時、体育委員の生徒がそ

れに気付く、「集合！」と大きな声を掛けました。リーダーが説明している時には全員がじっと耳を傾けて聞いていましたし、練習の内容や進め方は各パートリーダーが話し合っ自分たちで決めていました。生徒はそれぞれ自分が出来ることを行い、担任の私は場を設定するだけだったのです。結果は銀賞でしたが、生徒は達成感いっぱい、教室に

戻った後、再度全員で課題曲を熱唱し、頑張りたたえ合いました。学級が安定すると生徒の心も安定し、生徒は何事にも全力を尽くそうとします。生徒の自主性や意欲は、生徒や教師との信頼関係の上に育まれていくのです。だからこそ、学級経営力や授業力に磨きをかけるべく、日々努力を続けていきたいと思っています。

意欲を育む授業づくり

石川先生の取り組み

◎数学の授業では、興味を持って自分自身で考えたり、話し合いが出来たりするように、身近な事象を題材にして問いを投げ掛けるなどの工夫をしています。グループ活動を行うのも、周りの生徒との話し合いを通してさまざまな観点に気づき、知的好奇心を喚起させるねらいもあります。



葉を題材にして、数の規則性を教えている様子。理想は「5割教えて8割分かる」授業。解説をする前に、個人やグループでじっくり考える時間を設けている